

ら しん ばん 羅 針 盤



進路だより 第五号

平成 22 年 1 2 月 1 6 日(木)発行
福島県立双葉高等学校 進路指導部

期末考査も終わり、一、二年生はとりあえずホッとしているのでしょうか。(もちろん赤点の心配がない人)三年生の場合は、推薦入試も一段落し、進路が決定してあとは卒業式まで何をしようかという人と(それこそ中には何して遊ぼうかと思っている人も)ホッとするどころかこれからがセンター・一般入試の本番だという人の、二とおりに分かれるでしょう。後に現三年生の現在までの(12月10日現在)進路決定状況を書きますが、一、二年生にとって自分の進路実現の為に大切なことは、得意な教科・科目を伸ばすまたは作るということです。冬季休業は三週間あまりと短いですが、ぜひそのためになるべく多くの時間を取って欲しいと思います。

以下に三年生、進路が決定した生徒、これから受験する生徒、それぞれに対してアドバイス、心構え等を記します。

進路が決定した生徒へ

上級学校へ進学が決まった人は、入学後、上級学校の授業についてけるだけの学力がはたして自分に備わっているかどうか、(推薦合格者には入学までの課題を課す大学が多い)就職先が決まった人は、本来高校は大学入試のための予備校ではなく、社会に出て生きていくために必要な幅広い基礎知識を身につけるため学習の場であるはず、学んだことのうち自分はどれだけ身につけているのか、(後に様々な資格が必要になったとき、結局のところ高校での学習が生きてくる)

ということをあらためて考えて欲しい。

学年の半数近くの生徒にとってこれからが入試の本番を迎えるということ、自分たちの仲間が合格を目指して残された少ない時間を必死で頑張っているということ、自習時間の無駄話や廊下で大声をあげて騒いだりすることに、非常に迷惑している人がいるということ、日々の学校生活の中で常に忘れないでいて欲しい。

これから受験する生徒へ

センター試験まで30日(1月15,16日)、私立大の一般入試も1月下旬からいよいよ始まります。皆さん必死で頑張っているとは思いま

すが、あえて一つ重要なポイントを述べておきます。「直前期だからこそ得意科目の勉強を怠るな」ということです。不得意科目や遅れている科目が気になるのはわかりますが、いくら得意科目でも勉強しなくなれば学力は落ちます。せっかくの得意科目で点数を落とさないことがなにより大切です。

以下はセンター試験の本番で実力に見合った点数を獲得するためのアドバイス。

センター試験は、どの科目も試験時間の割に問題量・数が多いのが特徴。試験時間をどう使って解答を進めるかが、実力を出し切れるかどうかのカギを握る。その基本戦略

とにかく全問マークする。(全問に目を通しマークできるように時間を使う)

実力的に解ける問題は絶対落とさない。(一番まずいのは気がついたら時間が残っていなかったというパターン)

過去問、演習問題を解く時は上記の2点を常に意識して実践力をつけよう。

具体的シミュレーション

問題用紙が配られたら、まず全問を見渡す。第1問から順番に解くのではなく、解けそうな問題から着手する。(この方法は全教科に共通するが、特に数学、物理、化学など理系科目で重要)以下その手順

1 全問に目を通す(読むのではない)

2 問題ごとに印をつける ○, △, ×

…解けそう × …ちょっと無理 というふう

3 から先に解く(問題番号順とは限らない)

まず から始め次は へ集中して解く。1題解けると落ち着き、次も普段通り解けるときが多い。何より大切なのは「時間配分」。難問に貴重な時間を浪費するより、 や に優先して時間をかける。

たとえば数学で、 や が完全に解けない場合は、とにかく小問(1)だけでも解こう。大問が小問2つで構成されていれば、(1)は教科書にある基本問題程度が多いし、(2)は(1)の結果を利用すれば解けるようになっていくケースがほとんどだ。ただ×の問題にも比較的優しい小問が用意されていることがあり、各大問のうち小問(1)を解くだけで、全体の3~4割近くを取れる。とにかく部分点をコツコツかせぐこと。1点差を争う合格ライン際で最後にこれが効いてくる。